

資料 1

<実践 1> 「縄文文化をもとに音楽をつくろう」

Reporter 小野沢美明子（開智国際大学）

<例 1：貝グループの活動 >

音素材：シジミ、アサリ、ホタテ、アワビの殻など

（1）縄文土器を観察してみよう

Supporter の声かけにより、各グループに用意された土器の観察が始まる。形、大きさ、手触り、色、凹凸、文様の斜線、長さ、間隔などについて、子供たちは感じたことを次々に発表していく。

「う～ん、土がついてた」「くさい」「タイヤの形、トラクターの形に見える」「クネクネ」「小さい車みたい」「ザラザラ」「硬い」「ギザギザ」「タイヤの化石みたい、石のタイヤ、だってこれ石だもん」「粉みたいなのが付いてる」「真ん中を触ると気持ちいい」

（2）貝がらはどんな音がでるかな

子供たちは、シジミからアサリ、ホタテ、アワビ等々、大小様々な貝殻を手に取り、一緒に置いてあった猪の骨などを用いてこすったり、叩いたり、貝殻同士をこすり合わせたり、半分に割ったひょうたんに小さな貝殻を入れて揺すったりして、つくり出される音を確認するのに夢中である。

（3）土器の文様を見ながら音楽をつくってみよう

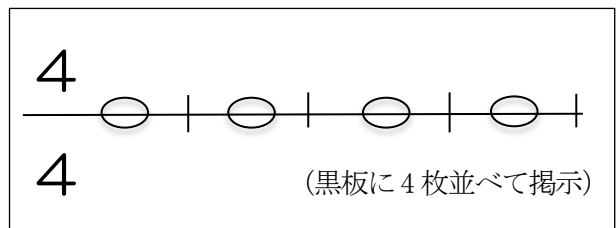
「自分で気に入ったものを選んで下さい」という Supporter の呼びかけで、早速子供たちは音素材を選び出す。

Supporter が見本を見せて、子供たちに模倣するように指示する。（以下、S は Supporter, C は子供を示す。）

S : ♩ ♩ ♩ ♩（手拍子をする。）

S : いくよ、1、2、3、4。

4回たたかないといけない。



学生：(上記の譜面を1拍ずつ指さしながら)

タン タタ タン ウン、でいい？

C : ♩ ♪ ♩ ♩（自分の選択した音素材を使ってリズム打ちをする。）

S : みんな、自分の考えたの、一緒にやってみよう。でも、もうちょっと変えたいなと思ったら、変えてもいいんだよ。

S : ウン、ウン、と、そこは別のにしようか。頑張る。

S : タン タン タン タン（手で子供に向かって懸命に合図をする。）

<例 2：木の実グループの活動>

音素材：クルミ、クリ、ドングリ、トチノミなど

（1）木の実の音色を味わおう

子供たちは、用意された木の実を代わるがわる手に取って、振ったり、かち合わせたり、木の棒でたたいたりして、音色を味わっている。

C: (くるみを両手に持って、上下に振りながら) マラカス、マラカス。

C: (ひょうたんを半分に割った器の中に、ドングリをたくさん入れて、木の棒でグルグルかき混ぜながら) 疲れた～。

(2) 休むところと、強弱を考えてみよう

4分の4拍子、4小節の譜面を指さしながら、Supporter が子供たちに聞いていく。

S: 2拍目は?

C: 休み。

S: 3拍目からは?

C: 小さく。

S: 1, 2, 3, 4, でここからは?

C: だんだん大きく。

S: ここの3小節目は?

C: ここは大きくなるから。

S: 3小節目は、みんなずーっと大きくやるんだって。じゃ、ここ(4小節目)は?色が変わっているから…。

C: だんだん小さく。

S: そう、だんだん2拍で小さくして、(3拍目は) 休み。最後は?

C: ガン!

S: ガン!

<例3: 石グループの活動>

音素材: サヌカイト, 丸みをおびた石, 直方体の平たい石など

(1) 自分の気に入った音を発表しよう

子供たちは、石を木の棒でたたいたり、石と石で音を出したりしながら、それぞれ気に入った音を順番に発表していく。四分音符のみで16回た

たいていく。

(2) 個々の気に入った音を重ねよう

Supporter は、化石の拡大写真を指さしながら、化石を楽譜に見立てて、左から右に向けて全員で音を出すように指示する。

S: 1, 2, 3, 4, 2, 2, 3, 4, 3, 2, 3, 4, 4, 2, 3, 4。

S: 1から16数える間に止まるのね。真ん中で8。1回自由に出してみよう。

(3) 音楽の休みを考えよう

Supporter の「みんな疲れちゃうから、一カ所休む場所を作りたいと思うんだけど、どこがいいかなあ」との問いかけで、子供たちが考える。Supporter が「4, 2, 3, 4の最後のところで休もうか」と提案する。

<例4: ひょうたんグループの活動>

音素材: 大小様々なひょうたん, くびれのあるひょうたんのないひょうたん

(1) 奏法による音色の違いを味わおう

子供たちは、ひょうたんを猪の骨で打ったり、木の実等を中に入れて振ったり、ひょうたん同士でたたいたりして音色を味わっている。さらに、骨の両端を交互に使ってひょうたんを打つことによる、微妙な音色の違いを表現している子供もいる。また、ひょうたんの大きさの違いや形の違い、中に入っている木の実の違いによる音色の差異をお互いに聞き合ったりしている。

(2) 強弱を考えよう

Supporter が子供たちに意向を聞いていく。

S: 強くやりたい人? 4人, 強くやりたい?

S: 先に強くやりたい? 終わりを強くやりたい?

C: 終わりを強く。

Supporter が、弱くやりたい子供から強くやりたい子供まで並び変える。

S: だんだん強くしていく。ここ (の人) から強く。

S: (譜面を指し示しながら) 最初の二つを (端から順番に子供を指して) 1, 2, 次の二つを 1, 2, 1, 2…。

(3) 通してやってみよう

Supporter の合図で子供たちは 2 拍ずつ♪♪と順番に自分の考えた音を奏でていく。8 人なので、ちょうど 16 拍である。Supporter に、「もっと強く、ここから」と言われてやってみる。

<例 5 : 鹿の角グループの活動>

音素材 : 鹿の角 他

(1) 16 拍の全体の構想を練ろう

黒板には、4 分の 4 拍子の譜面 4 枚が提示され、そこに話し合っただけで決められた奏法が書き込まれている。

最初の 10 拍 = 好きな音

11 拍目 = 休み

12・13 拍目 = シュツ, シュツ

Supporter が子供たちに問いかけて、奏法や強弱に関する表現方法を決めていく。なお、「T1」「T2」は、鹿の角グループの活動を見守っていた本校の教諭 2 名の発言である。

S: みんなならどうやりたい? 最後。

C: 大きい音にしたい。

S: 3 回, 大きい音でいいのかな。

S: じゃ最後は、みんなの声とか、持っている楽器で一番大きい音にしましょう。

T1: (手でやって見せながら) ババババババってたたいてもいいし、ジャガジャガジャガ (音素材をこする) ってやってもいいし、トン、トン、トン、って 3 回たたいてもいいよ。

S: 1, 2, 3, はい。

(子供たちは、角と角で打ち鳴らしたり、ひよ

うたんを角でたたいたりしながら順番に 1 回ずつ好きな音を表現していくが、「休み」の前で止まってしまう。)

(2) みんなで決めた通りできるかな

T2: (できない子に個別に) 最初、お気に入りの音を 1 回やって、やるでしょ、そしたら 1 回休んで、3 回トン、トン、トン。

T1: (Supporter に向かって) やるのかやらないのかわからなかったの、「始めるよ」って言ってやって下さい。

S: ああ。一番最初からやりましょう。さんはい!

(一通り最後まで進む。最後の 3 拍は、♪♪♪

と 3 回打つ子供と、トレモロで伸ばす子供が半々位である。)

T1: (出来ない子に個別に) 休み、シュツ、シュツだよ。

S: もう 1 回ゆっくり他の人の音を聴いてやってみましょう。

(Supporter の手拍子に合わせて 1 拍ずつ確かめるように子供たちが音を鳴らしていく。)

T1: 手ばたきをしてやって下さい。

S: じゃあもう一度。手ばたきに合わせて、よく音を聴いて、やってみましょう。1, 2, 3, はい!

T1: (Supporter に) 休みのところも、手ばたきを休んじゃっているんで。

(3) 「休み」がむずかしいなあ

Supporter の合図でもう一度やってみるが、Supporter が「休み」と言わないと、休みが入らない。

(4) 強弱も工夫しよう

S: 最後のところは、大きい音とか、自分の好きな音で。

子供たちは、Supporter のアドバイスで、思い思いの音を出してみる。

まとめ

体育館で発表会をしよう

Teacher 黒子の「ここからは縄文人になります。縄文人になって、土器の破片の音楽をこれから発表してもらいます」との呼びかけの下、発表会が始まる。

(1) 各班ごとにつくった音楽を発表しよう

まず、6年生のリーダーがどのような土器の様子を表現したかを発表する。なお、全ての班はSupporterの指揮のもとに発表が行われた。演奏時間は各班とも10秒程である。

<1班 猪の骨グループのリズムと奏法—リズムパターンと音の高低への着目>



C：形がウイナーや波が流れている様子を表現しました。

9人(A~I)は、同時に以下のリズムパターンを4回繰り返す。1拍目と2拍目、3拍目と4拍目で、音の高低や、音色の違いができた。

A： ♪ ♪ ♪ ♪ 貝殻を上下に振る。

B： ♪ ♪ ♪ ♪ 貝殻を骨でこする。

C： ♪ ♪ ♪ ♪ 棒状の骨を棒状の骨でたたく。

D： ♪ ♪ ♪ ♪ 平たい骨を棒状の骨でたたく。

E： ♪ ♪ ♪ ♪ 前半は直径30cm位の球状のひ

ょうたんを棒状の骨でたたく。

後半はひょうたんを振る。

F： ♪ ♪ ♪ ♪ 貝殻を上下に振る。

G： ♪ ♪ ♪ ♪ 半分に割れたひょうたんを骨でたたく。

H： ♪ ♪ ♪ ♪ 平たい骨を棒状の骨でたたく。

I： ♪ ♪ ♪ ♪ 棒状の骨を棒状の骨でこする。

<2班 貝グループのリズムと奏法—1小節ごとの役割分担と音の大きさへの着目>



C：ザラザラしていたり、模様はタイヤの跡みたいなのがありました。

1小節目： ♪ ♪ ♪ ♪ (3人)

2・3小節目： ♪ ♪ ♪ ♪ (3人ずつ)

4小節目： ♪ ♪ ♪ ♪ (6人)

♪ ♪ ♪ ♪ (3人)

1・2・3小節目は3人ずつ担当し、最後は9人全員で表現することにより、大きな音で終わるように工夫した。奏法は、貝殻を振る、貝殻を貝


殻で打つ、ひょうたんには貝殻を入れて振る、貝殻を木の棒でこする、ひょうたんを木の棒でたたくなど。



<3班 篠竹・葦グループのリズムと奏法—1小節ごとの役割分担と音色の重なりへの着目>



C：土器のボコボコしているのを表現します。


[1小節目：2人]

A：  篠竹を吹く。


B：  葦と葦を打ち鳴ら  はトリル。

[2小節目：2人]


C：  篠竹を吹く。

D：  貝殻同士で打ち鳴らしたり、こすり合わせて伸ばす。

[3小節目：3人]

E, F, G：  貝殻を葦でかき回して、4拍目に貝の淵を打つ。

[4小節目：2人]

H, I：  葦と葦で打ち鳴らす。最後の4分音符は9人全員で打つ。

1小節目と2小節目では、篠竹がドローンの役割を果たし、そこにもう一人のメンバーがリズムを乗せることにより、音色の重なりを味わうように構成されている。4小節目の最後はメンバー全員の1打で締めくくられている。

<4班 石グループのリズムと奏法—音の高低とリズムの重なりへの着目>



C：土器の外側のボコボコザラザラしているのを表現しました。

以下、音符上に「低」と記されているものは、相対的に低音、それ以外は高音で表現されていることを示す。

1小節目：

 2小節目：

 3小節目：

 4小節目：





奏法は、石を貝殻でたたく、石と石を打ち鳴らす、貝殻を木の棒で打つなどである。

<5班 ひょうたんグループのリズムと奏法—自分の音に対するこだわり>



C: 変わった感じで、でこぼこしているし、縄の模様を表現しました。

A から H まで 2 拍ずつ順番に表現していく。8 人グループなので、全部合わせると 4 小節の音楽に仕上がる。

なお、ひょうたん (大) は、直径 30 cm 程度でくびれがなく、球体に近い形状をしている。ひょうたん (中) は、長さ 30 cm 程度でくびれがある形状である。ひょうたん (小) は、長さが 15 cm 程度でくびれがある形状である。ただし、形状はどれ一つをとっても全く合同ではない。

以下順番に表現 A ⇨ B ⇨ C ⇨ D ⇨ E ⇨ F ⇨ G ⇨ H

A: ♩ ♪ ひょうたん (大) をひょうたん (小) でたたく。

B: ♩ ♩ 先が細くなっている長さ 30 cm 位のひょうたんを鹿の角でたたく。

C: ♩ ♪ ひょうたん (大) を振る。

D: ♩ ♪ ひょうたん (大) を鹿の角でたたく。

E: ♩ ♪ ひょうたん (中) を猪の骨でたたく。

F: ♩ ♩ ひょうたん (小) 同士を打ち鳴らす。

G: ♩ ♩ ひょうたん (大) を鹿の角でたたく。

H: ♩ ♩ ひょうたん (大) をひょうたん (小)

でたたく。

<6班 鹿の角グループのリズムと奏法—自分の音とリズムの変化への着目>



C: 土器のでこぼこしたところや筋のあるところを表現しました。

10 名の子供たちは、1 拍ずつ順番に、1 打に思いを込めて表現する。11 拍目からは全員でリズムに変化を加えて仕上げている。

奏法は、鹿の角同士で打ち鳴らしたり、こすり合わせたり、ひょうたんを鹿の角で打ったりこすりたりしている。

1・2 小節目: ♩ ♩ ♩ ♩ (1 人ずつ)

3 小節目: ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ (1・2 拍目は 1 人ずつ、3 拍めから全員で)

4 小節目: ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ (全員で)

<7班 木の実グループのリズムと奏法—トレモロ奏法と効果的な休符の工夫>



C: でこぼこした部分の、色がだんだん変わるところを表現しました。

1小節目: ♪ ♪ ♪ ♪

3人が一拍ずつ順番に打つ。

クルミをこすり合わせる。⇨ 貝殻を
栃の実でこする。⇨ 半分に割ったひ
ょうたんのギザギザの淵を葦の茎で
こする。

2・3小節目: 。 ♪ (全員 tremolo で)

[奏法]

- ・半分に割った、直径 30 cm位のひょうたんの中にどんぐりや栃の実を入れて葦の茎でかきまわす。
- ・ひょうたんの中を葦の茎で連打する。
- ・半分に割った直径 20 cm位のひょうたんの中にクリを入れて左右に振る。
- ・クルミを上下に振る。
- ・ひょうたんを割った一部を棒状の物でこする。

4小節目: ♪ ♪ ♪ ♪ (全員)

打ったり、振ったりする。

T: 最後素敵, それも面白い。

< 8班 豆グループのリズムと奏法—豆とひょうたんの組み合わせによる音色の違いと4小節目の tremolo 奏法の工夫 >



C: 砂のような手触りと、矢印のような模様を表現しました。

1・2・3小節目: ♪ ♪ ♪ ♪ (1人ずつ)

4小節目: ♪ ♪ ♪ (全員で)

[奏法]

直径 30 cm位のひょうたんを縦や横に割った物の中に小豆, エゴマ, 大豆などを入れて, 手でかき回す, 豆を上からひょうたんの器に落とす, 器ごと左右に振る。20 cm位のくびれのあるひょうたんを上下に振る。ひょうたんを貝殻でこする。

(2) Supporter の土笛を加えてみんなで一つの音楽をつくろう



まず, Supporter の土笛の表現を全員で聞く。

次に教師の合図により, 土笛 (4名) で始まり, その音色に乗せて1班から順番に音楽を繋げて表現していく。8班まで表現したところで, 全班一

緒に重ねて表現する。全員による表現は 14 小節であり、Teacher の合図で徐々に大きくしていき盛り上げて最後を迎えた。

演奏時間は 2 分 18 秒である。

(3) 活動の振り返りをしよう

- ① グループごとに Supporter と一緒に活動の振り返りをする。

【木の実グループの振り返り活動】

C1: いろんなものを叩いたり、引きずったりおもしろかった。

C2: 楽しくなかったことはないよ。

C3: 楽器が決まらなくて、音が決まらなくて難しかった。

C4: どんなのを使ったら大きな音がでるか難しかった。

- ② 全体で振り返り活動をする。

C1: みんなと息を合わせて音楽をつくることがむずかしかった。

C2: 楽しかったことは、自分とみんなと一緒にやれたことです。

C3: 縄文時代のことがわかった。

Teacher 黒子の「今日は息が合いましたか」「心が通じ合えたのでしょうか」「縄文人になれた？」との問いかけに、皆「はい」と答えていた。